

## 【背景と目指す姿】

- 大田原市は耕地の9割近くが水田であるが、水稻栽培から転換して収益性の高い園芸生産に取り組む農業者が増加している。
- 水田をフル活用するための土地利用型園芸作物として加工用やまといもを平成26年度に金田地区で導入したところであるが、人力による作業では規模拡大が困難な状況にある。
- よって今後は、栽培管理の機械導入により機械化一貫体系を確立して生産性を向上し、大田原市内で産地化を進めて、収益性の高い水田農業経営を確立する。

## 1 水田における露地野菜転換面積

現状(平成30(2018)年度):4.3ha ⇒ 目標(令和3(2021)年度):12ha

## 2 主な取組内容(令和元(2019)～令和3(2021)年度)

項目	具体的方策
農地集積・集約化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やまといも栽培に適した土壌改良等(土づくり資材投入、パイプラインの整備等)(荒井町島地区)</li> <li>・人・農地プランの重点支援地域設定に向けた推進と中間管理事業の活用による農地集積・集約化</li> </ul>
効率化・省力化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定植機、かん水装置(スプリンクラー:圃場整備により設置した給水栓を活用)を導入し、機械化一貫体系の確立による省力化と品質向上</li> <li>・収穫等、機械化できない作業について共同作業が行える体制を部会で整備</li> </ul>
加工・業務用需要への対応力強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産地化により一定レベル以上の量・品質を確保し、安定した契約取引を実施</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>月一回定例勉強会や現地検討会の開催による部会員の栽培技術向上と連携強化</li> </ul>



ヤマトイモ圃場



圃場整備により設置した自動給水栓



定植前の土壌消毒